

授業科目名	芸術学	担当教員	藤野 一夫 熊倉 敬聡
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第3クォーター		
講義内容	<p>芸術学とは「芸術とは何か」を考える学問であると同時に、美術・音楽・演劇・舞踊・写真・映画・文学など、さまざまな芸術ジャンルの特性を理解する学問でもある。この講義では「芸術が生まれる場」という観点から、さまざまな芸術を捉えてみたいと思う。「芸術が生まれる場」には、それに立ち会う人が必要だからである。人と人との関係の中に成立する芸術は、人と人をつなげるコミュニケーションの媒体ともなる。つまりモノとしての芸術作品だけでなく、社会的な形成力、あるいは文芸的な公共性が立ち現れる場として「芸術」を考えてみたい。ミュージアム、文化ホール、劇場、コミュニティ・カフェなどを例に、芸術の社会的機能（役割）を探り、アートマネジメントや舞台芸術への理解を深めたいと思う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「芸術とは何か」を、さまざまな「芸術が生まれる場」から考え、芸術の社会形成力と文芸的公共性について理解する。 ・美術・音楽・演劇・舞踊・写真・映画・文学など、さまざまな芸術のジャンルの特性を理解する。 ・芸術の社会的機能（役割）を探り、アートマネジメントや舞台芸術への理解を深める基礎とする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「芸術」とは何か？：芸術？アート？Art？（熊倉） 2. 「芸術」が生まれる場（熊倉） 3. Art とカフェ①（熊倉） 4. Art とカフェ②（熊倉） 5. 藝道と茶室①（熊倉） 6. 藝道と茶室②（熊倉） 7. 演劇祭が生まれる場とそこから生まれる芸術のルール（藤野） 8. 総合芸術が生まれる場「パイロイト祝祭」への道と『タンホイザー』のロマン主義的革命的性①（藤野）。 9. 『タンホイザー』のロマン主義的革命的性②（藤野） 10. 『タンホイザー』のロマン主義的革命的性③（藤野） 11. 現代ダンスが生まれる場としての『タンホイザー』、その演出と振付の多様性（藤野） 12. 日本舞踊とノイエタンツ（ドイツの新舞踏）が交わる場から生まれたもの（藤野） 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の冒頭、学生たちに前回の内容を振り返る作業を行ってもらう。 ・各授業の最後、その回の授業内容を振り返り、ミニレポートを書いてもらう。 		
テキスト	資料に関しては、必要に応じて配付する。		
参考文献			
成績評価の基準	3分の2以上の出席を前提に、レポート（50%）、授業内のミニレポート（50%）で評価する。		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	該当しない。		
備考欄	50名を超えた場合、抽選を行う。		